

群馬県
「欠席連絡（感染症情報）の
データ連携事業・事業運営業務」

第4回事業運営検討会

令和8年2月16日

事業運営検討会 メンバー

- **公益財団法人日本学校保健会**
- **学校等欠席者・感染症情報システム運営事業者（株式会社エスイーシー/有限会社おうみコンピューターシステム）**
- **一般財団法人全国地域情報化推進協会（APPLIC）**
- **一般社団法人こどもDX推進協会**
- **内閣官房デジタル行財政改革会議事務局**
- **文部科学省健康教育・食育課**
- **こども家庭庁保育政策課**
- **厚生労働省感染症対策課**
- **群馬県**
 - ・ 教育委員会総務課
 - ・ 教育委員会健康体育課(学校保健担当)
 - ・ こども・子育て支援課(保育施設担当)
 - ・ 感染症・疾病対策課(保育所担当)
 - ・ 戦略企画課(新地創交付金担当)
- **委託事業者**
 - ・ 校務支援システム・汎用クラウドサービス導入事業者（Ddrive株式会社、株式会社滋野堤水堂）
 - ・ 保育ICTシステム事業者（株式会社コドモン）
 - ・ 交付金事務局事業者（PwCコンサルティング合同会社）

アジェンダ

- 1. 交付金事業の概要（再掲）**
- 2. 実証の進捗状況**
- 3. 仕様案検討状況**
- 4. 効果検証の進捗状況**
- 5. 今後のスケジュール及び事務連絡**

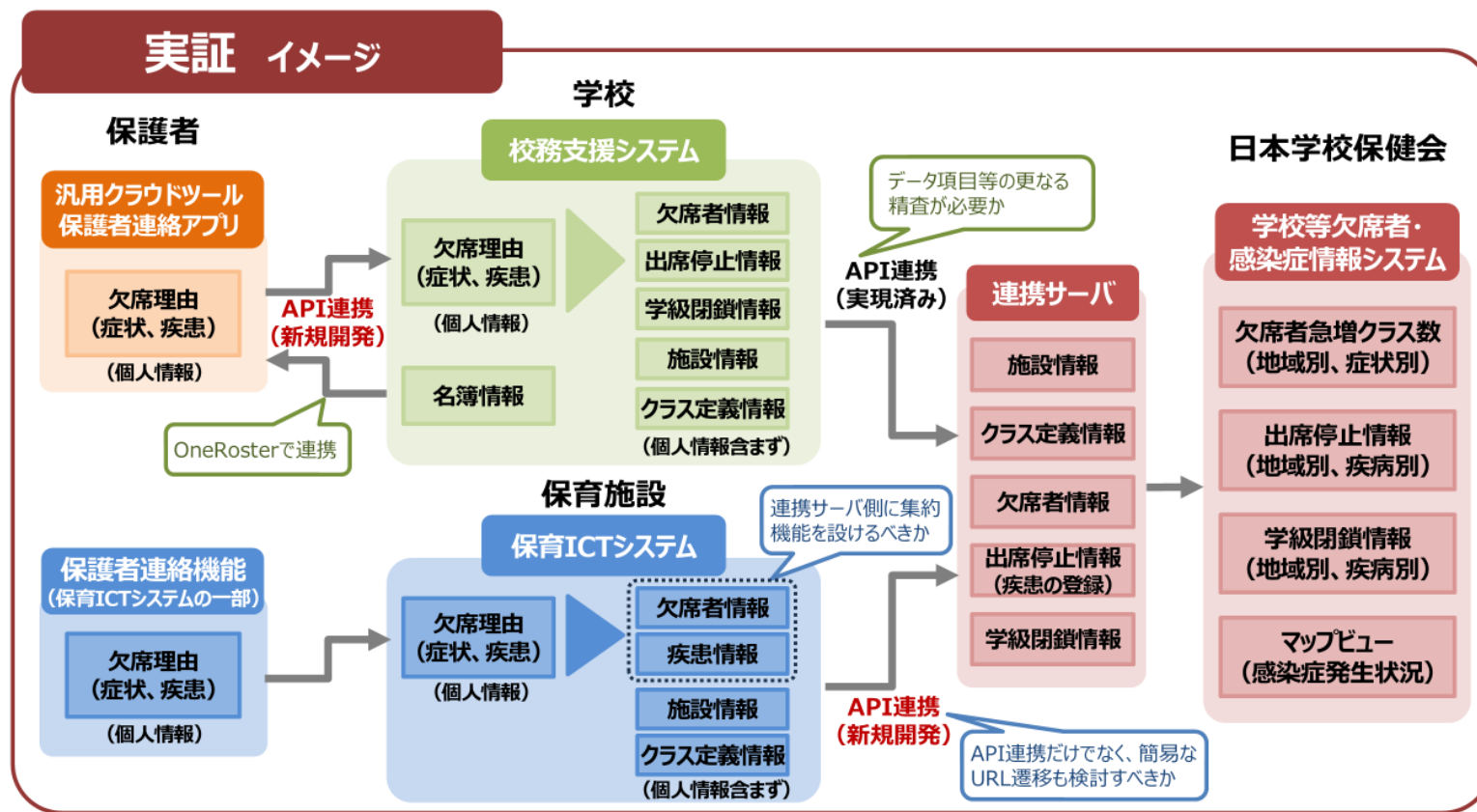
1. 交付金事業の概要(再掲)

1. 交付金事業の概要

TYPESにおける実証イメージ

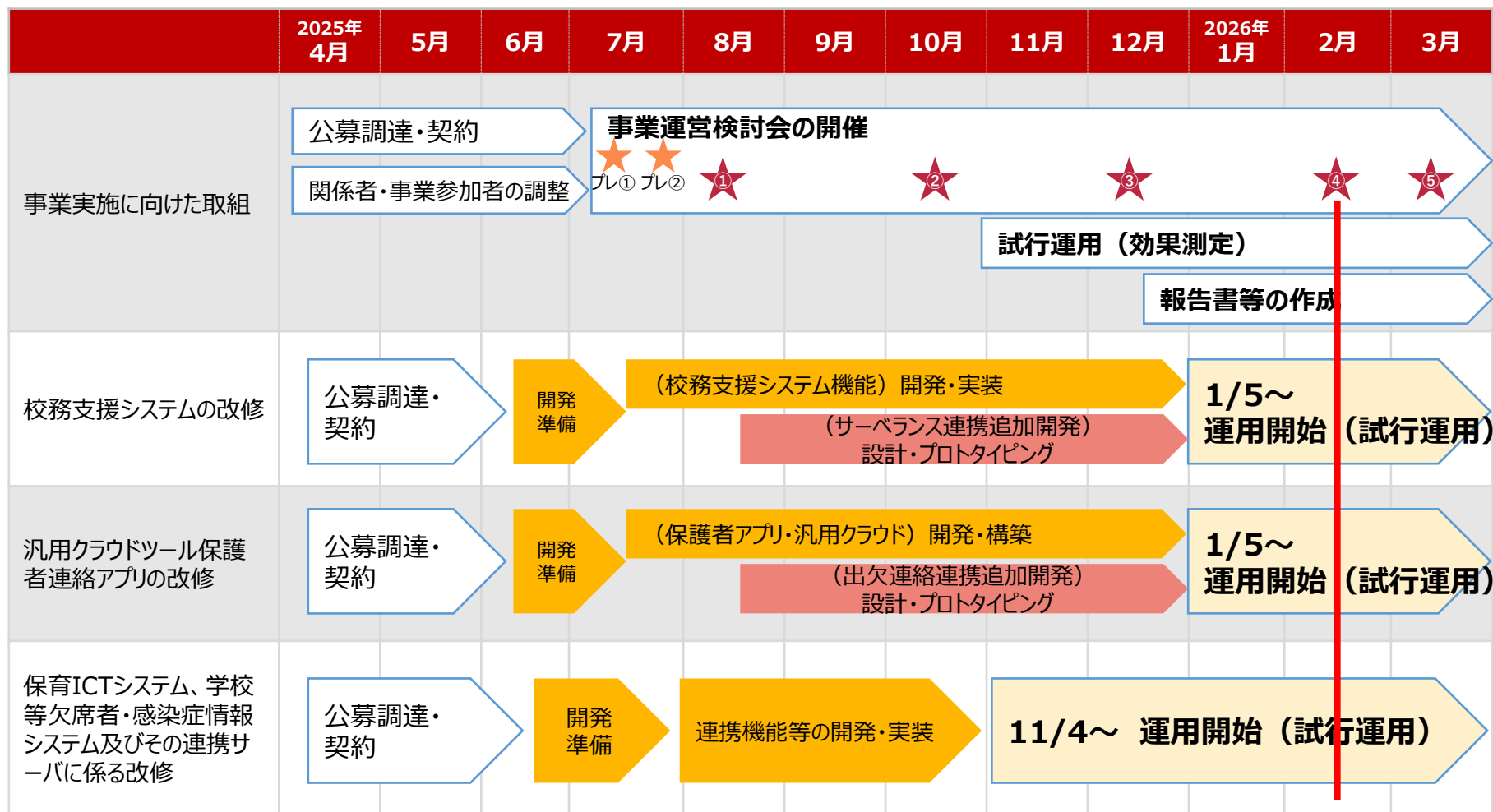
デジタル行財政改革会議

- 【学校】 「汎用クラウドツール」又は「保護者連絡アプリ」から「校務支援システム」へのデータ連携を可能とする。
 （「校務支援システム」から「連携サーバ」へのAPI連携は実現済み。）
- 【保育施設】 「保育ICTシステム」から「連携サーバ」へのデータ連携を可能とする。
 （「保護者連絡機能」は「保育ICTシステム」の機能の一部として実装済み。）



1. 交付金事業の概要（全体スケジュール）

✓ 実証内容や標準仕様案等の検討について、事業運営検討会で合意形成を図りながら進めており、**保育部分は11月から、校務部分は1月から実証を開始しました。** 実証の状況を踏まえ、**仕様案の検討と効果検証を進めております。**



2. 実証の進捗状況

2.1 保育

2.2 校務

2. 実証の進捗状況

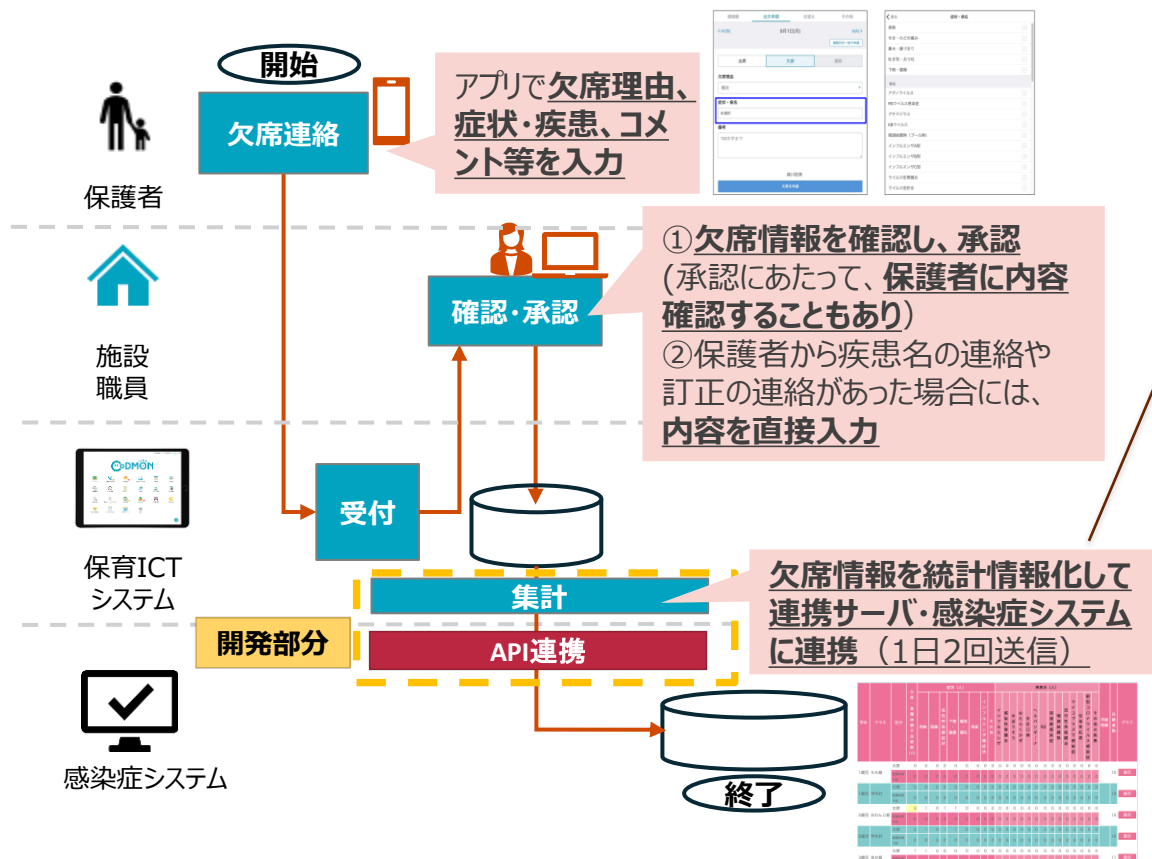
2.1 保育

2.2 校務

2. 実証の進捗状況 2.1保育【再掲】

- ✓ 11月4日から実証を開始し、保護者からの欠席連絡に基づく欠席情報等を感染症システムに自動連携しています。
- ✓ 実証期間中は1日に2回（午前午後それぞれ1回ずつ）欠席情報を連携しています。

欠席情報の感染症システムへの連携（データ連携の詳細）



データ連携時刻等

項目	送信内容	締切時間	バッジの開始時刻	感染症システムでの表示時刻
クラス情報等	クラス名 クラスの所属人数 等	6:00	9:00	10:00
欠席情報（午前）	保護者により送付された 症状・疾患の情報	12:00	15:00	16:00
欠席情報（午後）	同上	18:00	21:00	22:00

データ連携結果

2025年11月14日

学年	クラス	クラス種別	区分	欠席・登園体調不良総数(人)	症状 (人)										疾患名・出席停止 (人)										学級閉鎖	在籍者数	
					発熱	頭痛	急性呼吸器症状	下痢・腹痛	嘔気・嘔吐	インフルエンザ様症状	インフルエンザ	その他	おたふくかぜ	水ぼうそう	感染性胃腸炎	ヘルパンギーナ	手足口病	RS	溶連菌感染症	咽頭結膜熱	流行性角結膜炎	マイコプラズマ感染症	伝染性紅斑	新型コロナウイルス感染症			その他の疾患
0歳児	すくすくたんぽぽ組	保育園型	欠席	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			登園体調不良	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0歳児	0歳児組	保育園型	欠席	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	26
			登園体調不良	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0歳児	学年計		欠席	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	26
			登園体調不良	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

2. 実証の進捗状況

2.1 保育

2.2 校務

2. 実証の進捗状況 2.2校務

- ✓保護者連絡アプリや校務支援システムの構築など、試行運用に向けた環境構築が完了し、感染症システムへのデータ連携が開始されています。引き続き試行運用を行い、保護者や教職員からのフィードバックに基づき、効果検証や機能改善の検討などを行う予定です。

校務実証進捗状況

これまでの実施事項

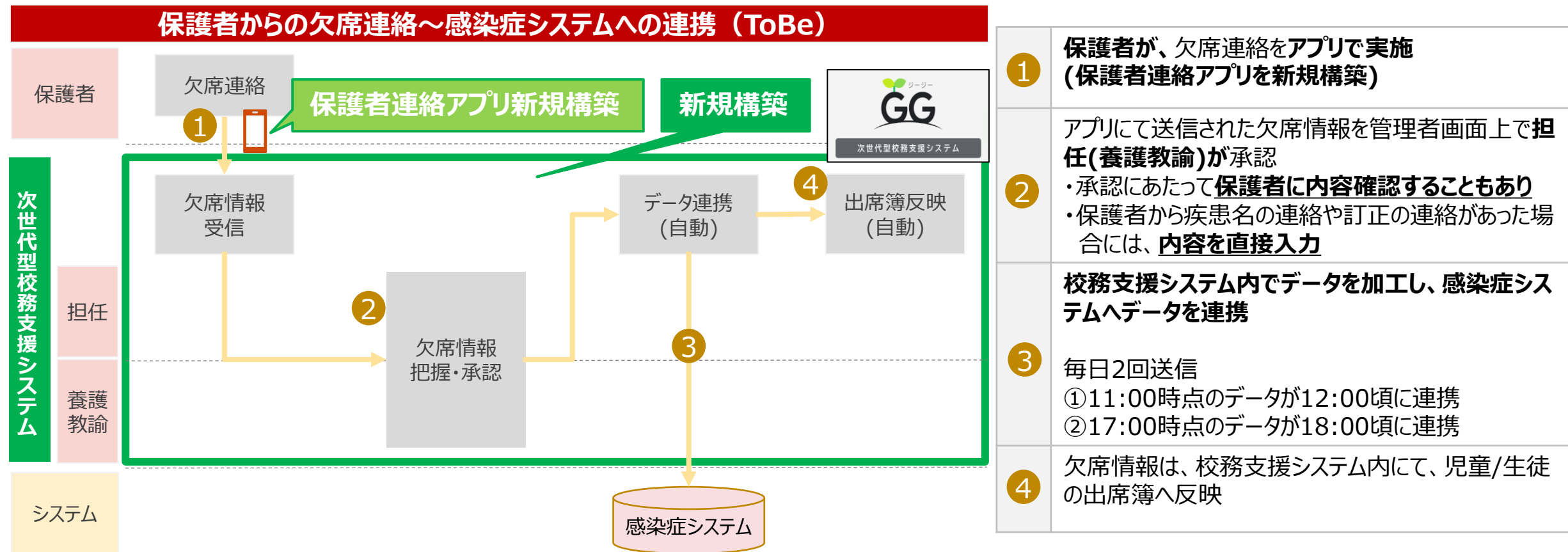
- 保護者連絡アプリの欠席連絡画面の設計・作成
- アプリのストア申請（iOS、Androidそれぞれ）
- 校務支援システムにおける「出欠席・健康観察」画面の設計・構築
- デモ版アプリの作成
- 市町村教育委員会、学校に対し導入スケジュール等の通知、デモの実施
- 保護者・教職員向けのアプリの操作マニュアル等の作成
- 校務支援システムに児童/生徒のデータ投入
- 各学校から保護者に対し、**三学期の始業式(1月)においてアプリのダウンロード・アプリによる欠席連絡を依頼**
- 保護者からの問い合わせ環境構築（コールセンターの設置等）
- **アプリ～校務支援システム～感染症システムへの自動連携開始**

今後の検討内容 (予定)

- 保護者・教職員へのサポート継続
- 保護者・教職員からのフィードバックを受けた**アプリ・校務支援システムのUI等の改善検討**
- **各種効果検証を実施**

2. 実証の進捗状況 2.2校務（実証の全体像）【再掲】

- ✓ 保護者がアプリ上で入力した欠席情報が、学校側で教職員が校務支援システム上で承認することにより、感染症システムへ自動連携されます。また、出欠情報は校務管理に活用され、これまで月末にまとめて手入力で行っていた、児童/生徒の出席簿の作成が、日々自動作成され、不要となります。



2. 実証の進捗状況 2.2校務 -対象校の決定と試行運用の開始時期-

- ✓群馬県内 8 校の実証校が決定され、実証を開始し、保護者連絡アプリに入力された児童・生徒の欠席情報を校務支援システムを介し、感染症システムの連携サーバへ自動連携しています。

学校名	中之条町立 中之条小学校	東吾妻町立 東小学校	東吾妻町立 太田小学校	東吾妻町立 原町小学校	東吾妻町立 岩島小学校	東吾妻町立 坂上小学校	東吾妻町立 東吾妻中学校	長野原町立 中央小学校
児童・生徒数	• 450人	• 56人	• 82人	• 148人	• 55人	• 33人	• 223人	• 75人
職員数	• 63人	• 18人	• 16人	• 26人	• 20人	• 17人	• 37人	• 24人
欠席連絡の方法	• 安否確認、 連絡網システム 「オクレンジャー」	• 安否確認、 連絡網システム 「オクレンジャー」	• 安否確認、 連絡網システム 「オクレンジャー」	• 安否確認、 連絡網システム 「オクレンジャー」	• 安否確認、 連絡網システム 「オクレンジャー」	• 安否確認、 連絡網システム 「オクレンジャー」	• 安否確認、 連絡網システム 「オクレンジャー」	• 安否確認、 連絡網システム 「オクレンジャー」
利用している 校務支援 システム	• なし	• なし	• なし	• なし	• なし	• なし	• なし	• Eduo（実証 利用）
感染症システム への入力者	• 養護教諭	• 養護教諭	• 養護教諭	• 養護教諭	• 養護教諭	• 養護教諭	• 養護教諭	• 養護教諭

2. 実証の進捗状況 2.2校務（保護者連絡アプリ・校務支援システムの構築）

- ✓保護者連絡アプリの欠席連絡画面は以下のイメージで構築しています。わかりやすく簡易な設計として、選択項目についても「家事都合」など、平易な表記としています。

保護者連絡アプリでの欠席連絡の操作方法（保護者向け）



1 GGコネクタアプリを起動

2 「遅刻欠席」をタップ

3 児童・生徒名、日付、遅刻欠席、事由をプルダウンから選択し保護者コメントを入力

4 「送信する」をタップ

2. 実証の進捗状況 2.2校務（保護者連絡アプリ・校務支援システムの構築）

- ✓校務支援システム上の欠席情報確認画面は以下のイメージで構築しています。
- ✓保護者からの欠席連絡の内容が自動連携され、教職員が内容を転記・保存することで、出席簿・健康観察簿に内容が反映される仕様となっています。

校務支援システム上の画面

Gunma 1 サポートサイト



1 GG（次世代校務支援システム）を起動

保護者連絡アプリから自動連携

【教職員による転記作業を残している理由】
出席簿・健康観察簿を作成する業務の趣旨に照らして、「児童生徒の出欠席状況を、教職員の責任において正確に記録することが必要である」との声を踏まえ、UIとして反映している

2 「児童生徒」から「出欠席・健康観察」を選択

3 保護者連絡アプリから反映された欠席情報を確認し、「項目」「詳細項目」をプルダウンから選択（保護者連絡アプリからの自動連携内容を転記）

4 「保存」を選択

3. 仕様案検討状況

3.1 保育

3.2 校務

3. 仕様案検討状況

3.1 保育

3.2 校務

3. 仕様案検討状況 3.1 保育

- ✓ 仕様案を事務局にて作成のうえ、業界団体や関係省庁等をはじめとする関係者の皆様方から個別ヒアリング等によりご意見をいただき、整理させていただいた仕様案を提示させていただきます。

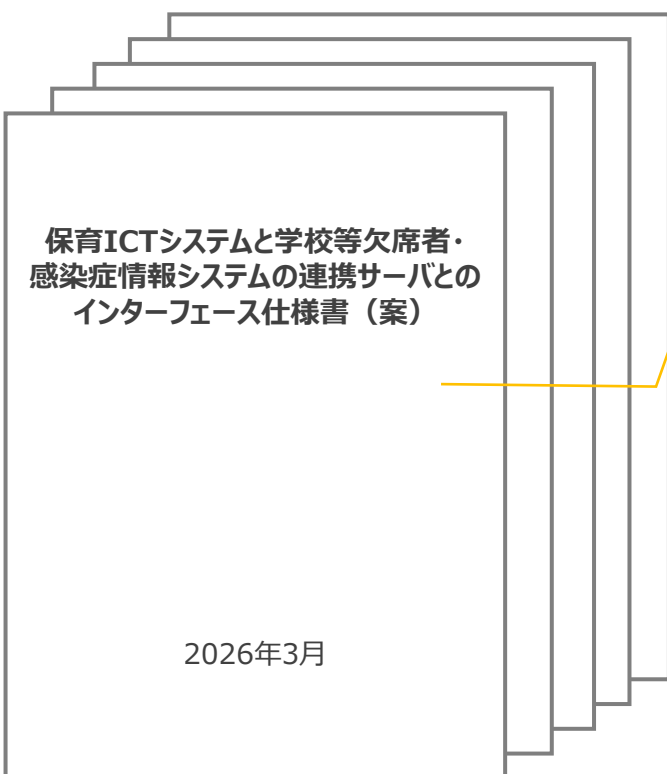
	今後の進め方	実施時期
ドラフト版の作成	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 実証環境の構築にあたって実施した事項や、感染症システムにおけるインターフェース定義書等を参考として、事務局にて仕様案・データ標準案のドラフト版を作成 ✓ 特に、「疾患登録」画面へのデータ連携方法の具体案を中心として、これまでの議論を反映 	2025/11月～
ドラフト版に対する意見聴取	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ドラフト版をもとに、事務局にて論点となる事項を洗い出し、関係者に対して意見聴取を実施 ✓ 個別ヒアリング及び書面における意見照会のうえ、効率的に各者からの意見を集約（日本学校保健会様、こどもDX推進協会様、関係省庁、群馬県関係部局等） ✓ 特に、「疾患登録」画面へのデータ連携方法の具体案の実現可能性等について精緻化 	2025/12月～
意見を反映し最終化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 事務局にて、個別ヒアリングや書面による意見照会、プレ検討会等の結果をドラフト版に反映し、仕様案・データ標準案として最終化 ✓ 第4回事業運営検討会(本日)にて提示し、合意形成 ✓ 最終的には、仕様案の最終版を、第5回事業運営検討会にて共有 	2026/1月～

3. 仕様案検討状況 3.1 保育

- ✓ 本事業の募集要綱において、保育ICTシステムと感染症システムの連携仕様案・データ標準案の策定が成果物として定められており、以下のとおり記載すべき項目を検討し、詳細の取りまとめを行いました。

本事業の募集要綱における成果物

保育ICTシステムと「学校等欠席者・感染症情報システム」の「連携サーバ」とAPI連携又はファイル連携する場合、当該連携に係る仕様案・データ標準案



#	大項目	小項目
1	仕様案の概要	本書の位置づけ
		本書作成の背景
		本書の記述範囲
2	システムアーキテクチャ	保育ICTシステムのアーキテクチャ概要
		感染症システムのアーキテクチャ概要
		データ連携方法（API、バッチ処理、リアルタイム連携など）
3	データ形式とプロトコル	データフォーマット
		通信プロトコル
4	データ項目標準案	施設情報・クラス情報（施設名、クラス情報等）
		感染症情報（症状・疾患名等）
5	エラーハンドリング	データ受信の際のパリテーション
		エラー時の処理フロー
6	セキュリティおよびプライバシー	データの暗号化方法
		アクセス制御と認証
		プライバシー保護のための法令遵守事項
7	テスト計画	テストの種類と目的
8	参考情報	用語集

3. 仕様案検討状況 3.1 保育

- ✓意見収集の対象となる関係団体ごとに個別ヒアリングや書面による意見照会を実施し、全国標準とする仕様案・データ標準案ドラフトに対する意見を取りまとめました。

組織の名称	意見収集の主な観点/意見収集の方法
公益財団法人日本学校保健会	<ul style="list-style-type: none"> データ標準案検討にあたって、特に症状や疾患名に関するデータ項目の定義等について感染症対策の観点から意見を収集
感染症情報システム運営事業者（株式会社エスイーシー/有限会社おうみコンピューターシステム）	<ul style="list-style-type: none"> システム運営事業者としての運営上の課題把握や現状の連携仕様についての詳細確認等を実施 個別ヒアリング及び書面による意見照会を実施
一般社団法人こども DX 推進協会	<ul style="list-style-type: none"> 複数の保育ICTシステム事業者が参画しており、事業者の目線にてデータ連携の技術的な観点や開発コスト等の観点から意見を収集 個別ヒアリングや協会内委員会の事業者に対し書面による意見照会を実施
保育ICTシステム事業者（株式会社コドモン）	<ul style="list-style-type: none"> 実証環境の構築にあたって得られた課題等をもとに、今後参画する保育ICTシステム事業者の目線や全国展開可能な仕様としての妥当性等を中心に意見を収集 個別ヒアリング及び書面による意見照会を実施
こども家庭庁、厚生労働省、内閣官房デジタル行財政改革会議事務局	<ul style="list-style-type: none"> 所管法令・ガイドラインとの整合、国の他事業等で実施しているデータ標準等の検討過程との整合性等の観点から意見を収集 個別ヒアリング、書面及び事業運営検討会において意見照会を実施
群馬県関連部局	<ul style="list-style-type: none"> 県・市町村の既存システム・ネットワークとの整合、学校・保育施設における運用負荷や支援体制等の観点から意見を収集 個別ヒアリングで意見照会を実施
保健所	<ul style="list-style-type: none"> 公衆衛生実務の観点から、必要情報の粒度等との整合について意見を収集 個別ヒアリングで意見照会を実施

3. 仕様案検討状況 3.1 保育

- ✓ 関係団体等へのヒアリング、意見照会においては、具体的なデータ連携方法やデータ項目をどのように標準と定めるか大きな論点となり、重点的に議論を行い仕様案に取りまとめを行いました。

#	大項目	小項目
1	仕様案の概要	本書の位置づけ 本書作成の背景 本書の記述範囲
2	システムアーキテクチャ	保育ICTシステムのアーキテクチャ概要 感染症システムのアーキテクチャ概要 データ連携方法（API、バッチ処理、リアルタイム連携など）
3	データ形式とプロトコル	データフォーマット 通信プロトコル
4	データ項目標準案	施設情報・クラス情報（施設名、クラス情報等） 感染症情報（疾患名等）
5	エラーハンドリング	データ受信の際のバリデーション エラー時の処理フロー
6	セキュリティおよびプライバシー	データの暗号化方法 アクセス制御と認証 プライバシー保護のための法令遵守事項
7	テスト計画	テストの種類と目的
8	参考情報	用語集



3. 仕様案検討状況 3.1 保育

- ✓ 具体的には、感染症システムの「疾患の登録」画面へのデータ連携方法、コード体系の標準化、感染症システムへ連携する際に必須とする疾患項目や保育ICTシステムの表記との紐づけルール等が主な論点となりました。

	主な論点	論点の概要	検討のポイント
(1) データ 項目標準案 検討におけ る主要論点	論点① コード体系の標準化	<ul style="list-style-type: none"> 「施設コード」、「クラス番号」等のコード体系を定義する必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 感染症システムで独自に付与している施設コードについて、<u>ここ deサーチ※等、広く活用されているコードを採用すべきかどうか</u> ✓ 将来的に国などが運営する他システムとの接続が容易になるよう、施設コードを定義しておく必要がある
	論点② 感染症システムへ連携する際に必須とする疾患項目	<ul style="list-style-type: none"> 保育ICTシステムから連携を必須とする疾患の項目は何か 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ <u>感染症対策の観点で、連携必須とする疾患項目は何か</u> ✓ 感染症システムで有する疾患項目について保育ICTシステムでは有していない場合があり、その場合の連携ルールをどう定めるか
	論点③ 感染症システムへ連携する際の紐づけルール	<ul style="list-style-type: none"> 保育ICTシステムと感染症システムにおける症状・疾患項目をどのように紐づけるか 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 同じ症状・疾患を指していても保育ICTシステムと感染症システム表記が違う場合（疫学的な正式名と通称名の場合など）があり、<u>対応ルールをあらかじめ定めておく必要がある</u>

※ここdeサーチ：独立行政法人福祉医療機構（WAM）が運営する、全国の認定こども園、保育所、幼稚園などの情報を検索できる「子ども・子育て支援情報公表システム」

3. 仕様案検討状況 3.1 保育

- ✓ 具体的には、感染症システムの「疾患の登録」画面へのデータ連携方法、コード体系の標準化、感染症システムへ連携する際に必須とする疾患項目や保育ICTシステムの表記との紐づけルール等が主な論点となりました。

	主な論点	論点の概要	検討のポイント
(2) データ連携方法における主要論点	論点④ 「疾患の登録」画面への具体的なデータ連携方法	<ul style="list-style-type: none"> • 保育ICTシステムから疾患の登録画面への具体的な連携方法の定義 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 疾患の登録画面への連携に必要なデータを保育ICTシステムで保有していない場合、算出ロジックの構築などを含め、連携のための具体案をどのように定義すべきか ✓ 連携のための具体案について、システム改修コストや感染症対策観点でのデータの正確性などを考慮し、実現可能性を検討する必要がある
	論点⑤ データ送信頻度・時間・上書き処理ルール	<ul style="list-style-type: none"> • 感染症システムへのデータ送信頻度や送信時間、データの上書き処理のルールについての定義 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ データ利用者の観点から、望ましい送信タイミングはいつか、システム負荷等の観点から複数回送信することとすべきか ✓ データの上書きについて、何日間さかのぼって実施することとするか、上書きによって業務上不都合が生じることはないか

3. 仕様案検討状況 3.1保育

- ✓ 関係団体からの意見を踏まえ、標準案へは、施設コード等のコード体系について、国の検討と整合を図る方針としました。

論点①：コード体系の標準化

主な意見

- ✓ 施設コードについては、**国（こども家庭庁等）が管理する共通マスタや標準コードを参照・利用する仕組み**を要望する
- ✓ 保活ワンストップ事業や施設管理プラットフォーム同様、**「ここdeサーチ」をベースにすべきではないか**
- ✓ 感染症システムや保育ICTシステムでは、すでに固有の保育施設IDを付与しており、**標準コードを設定する場合は紐づけ作業のコストや作業が発生**する
- ✓ 保育施設では異年齢保育など柔軟な編成が多く、**学年・クラスの区分が必ずしも固定されないため、標準化する場合、どの業務で厳密な学年・クラス情報が必要なのか明確化**する必要がある

議論の結果

- ✓ 国が検討しているここdeサーチ等をベースとすることがよいのではないか
- ✓ クラス定義情報については、保育施設ごとに様々なクラス編成となっており、一律に標準化することは難しいのではないか
- ✓ 標準とするコードへの対応には十分な移行期間を設けることが必要ではないか

全国標準とする仕様案・データ標準案への反映方針及び今後要検討の課題

- ✓ 将来的に様々な保育関連システムとの連携を効率的に行うため、**こども家庭庁「保育現場でのDXの推進に向けた調査研究事業」データセット（案）で検討されている施設コード等、国の検討と整合を図ることとする**
- ✓ すでに付与しているコードからの変換対応等、コストや工数が発生するため、**十分な移行期間や対応に係る支援措置の検討が課題**
- ✓ **クラス定義情報については一律に標準化することが難しい**ため、例えば感染症システムで管理しているクラスIDをAPI等で取得できる形の検討を行うことも一案

3. 仕様案検討状況 3.1 保育

- ✓ 関係団体からの意見を踏まえ、標準案へは、学校の運用に倣い、出席停止対象となる疾患や過去の感染症システムへの登録状況を考慮し、連携必須とする疾患名を決定しました。

論点②：感染症システムへ連携する際に必須とする疾患項目

主な意見

- ✓ 保育ICTシステム側で有していない疾患名もあり、感染症システム側で必要とするすべての疾患項目についてデータ連携することは難しい
- ✓ 日本学校保健会として連携必須としたい項目については、仕様に反映したい

議論の結果

- ✓ 保育ICTシステム側で、ユーザの利便性等の観点から項目を設けていない疾患名もあり、すべてを自動連携の対象とすることは現実的ではないのではないか
- ✓ 過去に登録された疾患の項目の状況を鑑み、連携すべきかどうか検討してはどうか

全国標準とする仕様案・データ標準案への反映方針及び今後要検討の課題

- ✓ 学校で運用されている**出席停止等の対象となる疾患については、連携必須**とする方針とする
- ✓ その他、一部の疾患項目については、発生件数等を考慮し、**当面の間、施設側での手入力対応**とし、将来的にはすべての項目の完全自動連携を目指す
- ✓ 発生頻度の少ない疾患の項目について、**全国レベルで過去にどの程度登録されており、入力の手間がどの程度であるのか、現場の実態を把握することが課題**

3. 仕様案検討状況 3.1 保育

- ✓ 関係団体からの意見を踏まえ、標準案へは、症状・疾患名の通称や正式名との紐づけ方法など、具体的なマッピングルールを設定しました。

論点③：感染症システムへ連携する際の紐づけルール

主な意見

- ✓ 症状・疾患項目は、保育ICTシステム上でユーザ毎にカスタマイズ可能なため、項目自体を一致させることは可能である
- ✓ 感染症システムに**新たな症状・疾患項目が追加された際に、保育ICTシステム側へどのように通知されるのか**、課題である
- ✓ 症状・疾患名のマッピングは、**保育ICTシステム側が独自名称で管理しているため、標準とする指定IDへの変換が難しく、受信側で名寄せ**する方式を検討してほしい

議論の結果

- ✓ 保育ICTベンダー個別に感染症システムの指定する症状・疾患項目の名称へ紐づけするための対応工数が大きく、全体最適とは言えない
- ✓ 新たな感染症の発生等、連携が必要な項目が増えた場合の対応など、運用面における仕組の検討も必要ではないか

全国標準とする仕様案・データ標準案への反映方針及び今後要検討の課題

- ✓ 感染症システムにおける症状・疾患項目と保育ICTシステムで保有している項目名との**マッピングルールを設定**
- ✓ マッピングルールに基づき、保育ICTシステムベンダーごとにデータ変換を行うことは対応工数が大きく、感染症システムもしくは中間にデータ変換を行う仕組みを用意するなど、**全体最適な観点から、効率的な方法を検討**することが課題

3. 仕様案検討状況 3.1 保育

- ✓ 関係団体からの意見を踏まえ、標準案へは、案 1 ～ 4 の実現にあたっての課題等を取りまとめ、次年度以降の論点を整理しました。

論点④：「疾患の登録」画面への具体的なデータ連携方法

主な意見

議論の結果

全国標準とする仕様案・データ標準案への反映方針及び今後要検討の課題

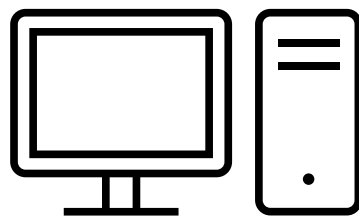
✓次ページ以降に詳細記載

3. 仕様案検討状況 3.1 保育（疾患登録のデータ連携イメージの具体案①）

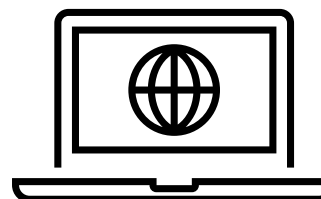
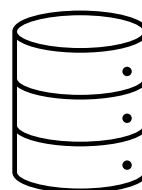
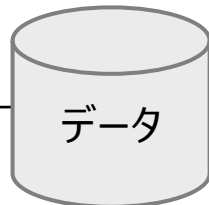
- ✓ 案 1 は保育ICTシステム側で日付ごとに発生した疾患別新規人数を作成して連携する案です。
- ✓ 感染症システム側で必要なデータの自動連携が可能となる一方で、保育ICTシステム側でシステム改修等の負担が生じることが想定されます。

案	概要	施設職員等の負担の観点	感染症対策/感染症システム側のシステム改修負担等の観点	保育ICTシステム側のシステム改修負担等の観点
<p><案 1> 保育ICTシステム側でデータ作成</p>	<p>保育ICTシステム側でデータ作成し、連携 (過去分を含む個人別・日付別の欠席データをもとに、特定の日付に発生した疾患別新規人数を作成)</p>	<ul style="list-style-type: none"> データの自動連携により、感染症システムへの手入力の負担が軽減 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症システム側の改修負担はなく、費用が発生するとしてもテスト工数だけであり小規模 校務支援システムとの連携で実績のある連携データレイアウトの場合、連携内容についても感染症システム側で再検討も不要であり、最も推奨 	<ul style="list-style-type: none"> 出席停止の扱いが学校と異なっており、施設側で当該情報の保有の必然性がない 保育ICTシステム側での集計処理は、開発・運用負荷が極めて高く現実的ではない

イメージ



疾患登録に必要なデータを作成



保育ICTシステム

感染症システム

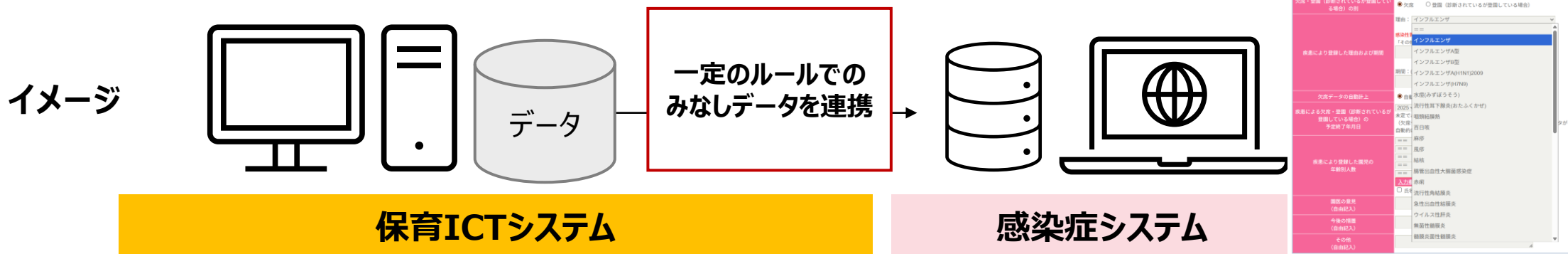


3. 仕様案検討状況 3.1保育（疾患登録のデータ連携イメージの具体案②）

- ✓ 案2は保育ICTシステム側で有しているデータをもとに、一定のルールを決め日付ごとに発生した疾患別新規人数とみなしたデータを連携する案です。
- ✓ 保育ICTシステム側のデータで対応できる可能性がある一方で、日付ごとに発生した疾患別新規人数のみなしデータが感染症対策に必要な精度であるかなど、検証が必要となることが想定されます。

案	概要	施設職員等の負担の観点	感染症対策/感染症システム側のシステム改修負担等の観点	保育ICTシステム側のシステム改修負担等の観点
<p><案2> 保育ICTシステム側で有しているデータをもとに、一定のルールに基づくみなしデータを連携</p>	<p>保育ICTシステム側で有しているデータをもとに、一定のルール※を決め、疾患別新規人数とみなしたデータを連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> データの自動連携により、感染症システムへの手入力の負担が軽減 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症システム側の改修負担はなく、費用が発生するとしてもテスト工数だけであり小規模 みなし連携となると、データの精度に差が出てしまうため、相応しくない 	<ul style="list-style-type: none"> 保育ICTシステム側での集計処理は、開発・運用負荷が極めて高く現実的ではない 保育ICTシステムごとにロジックを用意することになり、全体最適とは言えない

※一定のルール：特定の日付の疾患別人数をもって疾患別新規人数とし過去にさかのぼってデータを修正しない、さかのぼりを単純化して処理する等

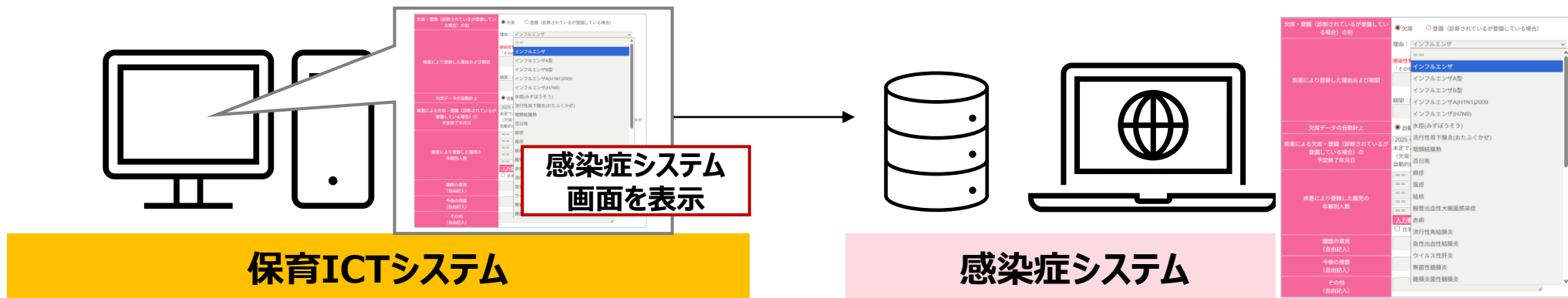


3. 仕様案検討状況 3.1保育（疾患登録のデータ連携イメージの具体案③）

- ✓ 案3は保育ICTシステムや感染症システムなど、複数のシステムにまたがってデータ入力を行う保育施設職員の負担軽減のため、保育ICTシステム側で感染症システムのデータ入力をできるようにする案です。
- ✓ 保育ICTシステム側でまとめて入力できるようになる一方で、保育ICTシステムや感染症システムの改修負担も発生します。

案	概要	施設職員等の負担の観点	感染症対策/感染症システム側のシステム改修負担等の観点	保育ICTシステム側のシステム改修負担等の観点
<p><案3> 保育ICTシステム側で感染症システムのデータ入力画面を実装</p>	<p>保育ICTシステム側に、感染症システムのデータ入力画面を表示させ、保育ICTシステム側の管理画面等からデータ入力をできるようにする</p>	<ul style="list-style-type: none"> 保育ICTシステム側で感染症情報を入力可能 システム間をまたいで入力する手間が削減されるなど、一定の負担軽減効果が見込まれる 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症システム側の改修が生じ、単純に画面を呼び出すだけではなく、どの施設から呼び出されたかを機能的に判断する必要 	<ul style="list-style-type: none"> リッチな体験を用意する場合、ユーザー認証情報やデータ連携の機構を準備するなど、改修負担は発生

イメージ

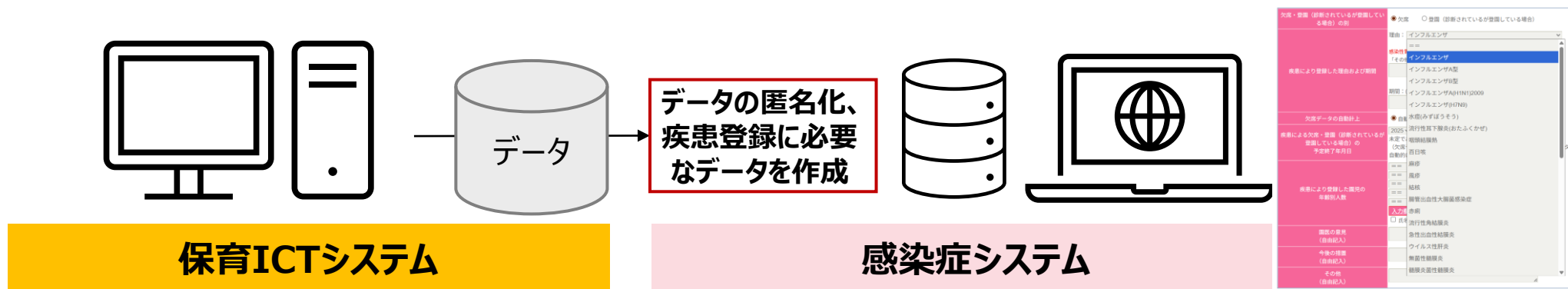


3. 仕様案検討状況 3.1 保育（疾患登録のデータ連携イメージの具体案④）

- ✓ 案4は、保育ICTシステム側から感染症システム側へローデータのまま連携し、感染症システム側でデータの匿名加工等、必要な処理を行う案です。
- ✓ 感染症システム側で個人情報の取扱対応や日付ごとに発生した疾患別新規人数を作成する機能を開発する必要があります。



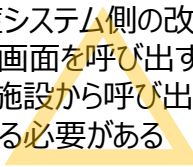
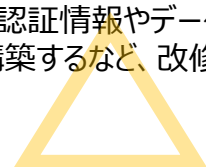
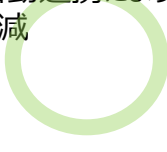
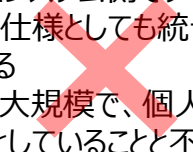
案	概要	施設職員等の負担の観点	感染症対策/感染症システム側のシステム改修負担等の観点	保育ICTシステム側のシステム改修負担等の観点
<p><案4> 保育ICTシステム側からローデータを連携し、感染症システム側でデータ作成</p>	<p>保育ICTシステム側から欠席データをローデータのまま感染症システム側へ連携し、感染症システム側で匿名加工等を実施し、日付ごとに発生した疾患別新規人数を作成</p>	<ul style="list-style-type: none"> データの自動連携により、感染症システムへの手入力の負担が軽減 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症システム側でデータ加工することで仕様としても統一された内容になる 感染症システム側の改修は大規模であり、個人情報を取り扱わないとしている感染症システムの内容から逸脱 	<ul style="list-style-type: none"> 最も効率的で、加工する機構を感染症システム側（中継するシステム）に用意すれば実現可能 AIレイヤーを用意するなど、ローデータをAI側で正規化・集計することで仕様統一の負荷も軽減

イメージ



3. 仕様案検討状況 3.1 保育（疾患登録のデータ連携イメージの具体案の検討⑤）

✓ 論点④「疾患の登録」画面におけるデータ連携方式について、関係者ヒアリング等を実施し、各案ごと・観点ごとに、課題となる事項を洗い出したうえで、それぞれの項目を評価した結果、目指すべき姿として案 1 及び 4 が望ましいという結論に至りました。

案	概要	施設職員等の負担の観点	感染症対策/感染症システム側のシステム改修負担等の観点	保育ICTシステム側のシステム改修負担等の観点
<案 1> 保育ICTシステム側でデータ作成	保育ICTシステム側でデータ作成し連携 (過去分を含む個人別・日付別の欠席データをもとに、特定の日付に発生した疾患別新規人数を作成)	・ データの自動連携により、手入力の負担が軽減 	・ 費用が発生するとしてもテスト工数だけであり小規模 ・ 校務支援システムとの連携で実績のある連携データレイアウトの場合、連携内容についても感染症システム側で再検討も不要	・ 出席停止の扱いが学校と異なっており、施設側で当該情報の保有の必然性がない ・ 保育ICTシステム側での集計処理は、開発・運用負荷が極めて高く現実的ではない
<案 2> 保育ICTシステム側で有しているデータをもとに、保育ICTシステム側で取得できるデータを一定の基準で新規感染者数とみなし連携	保育ICTシステム側で有しているデータをもとに、一定のルールを決め、疾患別新規人数とみなしたデータを連携	・ データの自動連携により、手入力の負担が軽減 	・ 感染症システム側の改修負担はなく、費用が発生するとしてもテスト工数だけで小規模 ・ みなし連携となるとデータの精度に差が出てしまうため、相応しくない	・ 保育ICTシステム側での集計処理は、開発・運用負荷が極めて高く現実的ではない ・ 保育ICTシステムごとにロジックを用意することになり、全体最適とは言えない
<案 3> 保育ICTシステム側で感染症システムのデータ入力画面を実装	保育ICTシステム側に、感染症システムのデータ入力画面を表示させ、保育ICTシステム側の管理画面等からデータ入力をできるようにする	・ 保育ICTシステム側で感染症情報を入力可能 ・ システム間をまたいで入力する手間が削減されるなど、一定の負担軽減効果が見込まれる 	・ 感染症システム側の改修が生じ、単純に画面を呼び出すだけではなく、どの施設から呼び出されたかを判断する必要がある	・ ユーザ認証情報やデータ連携の機構を構築するなど、改修負担は発生 
<案 4> 保育ICTシステムからローデータを連携し、感染症システム側でデータ作成	保育ICTシステム側から欠席データをローデータのまま感染症システム側へ連携し、感染症システム側で匿名加工等を実施し、日付ごとに発生した疾患別新規人数を作成	・ データの自動連携により、手入力の負担が軽減 	・ 感染症システム側でデータ加工することで仕様としても統一された内容になる ・ 改修は大規模で、個人情報扱わないとしていることと不整合 	・ 最も効率的で、加工する機構を感染症システム側(中継するシステム)のみに用意すれば実現可能 ・ AIレイヤーを用意するなど、ローデータを正規化・集計することで仕様統一の負荷も軽減

凡例: ○・・・各観点に対して疑義がない、小規模な負担が生じる、△・・・各観点に対して変化がない、または一定の負担が生じる、×・・・各観点に対して、大幅な負担や不都合が生じる

3. 仕様案検討状況 3.1 保育（仕様案の検討における主要論点）

✓データの正確性、データ入力負担軽減、実施コストの観点からそれぞれの案について検討した結果、案1及び4が望ましいという結論に至り、加えて、実現にあたって課題となる事項を整理し、仕様案へ反映しました。

案	データの正確性	データ入力負担軽減	実施コスト（各案共通）	実施コスト（個別）	実現にあたっての課題
<案1> 保育ICTシステム側でデータ作成	○ データの正確性としては、保護者による申告データであるため、望ましい	○ データの自動連携により、手入力の負担が軽減 ● 保護者の入力情報をもとに感染症システムへデータ連携されるため、ワンスオンリーが実現	● 現状、学校からのデータを連携するためのサーバーを保育施設からのデータについても利用する場合、当該サーバの運用・保守にかかるコスト負担のあり方検討が課題	● 保育ICTシステムの大規模な改修コストが発生 (千万～数千万円規模) ● データ変換の仕組開発だけではなく運用負荷が極めて高い	● 保育ICTシステムの改修コストが発生するため、 改修のためのインセンティブ設計（報告の義務化等含む）やコスト負担のあり方検討が課題 ● データ精度に関して 一定の基準によるデータが感染症対策に資するか、詳細な検討が課題 ● 感染症システム、保育ICTシステムとも改修コストが発生するため、 改修するためのインセンティブ設計やコスト負担のあり方検討が課題 ● ユーザーの利便性向上にどの程度資するか、詳細な検討が課題 ● 感染症システムの改修や 中間にデータ加工等の基盤を設ける場合、運用主体やコスト負担のあり方検討が課題 ● 感染症システムでは 個人情報情報を扱っておらず、データの取扱いについて整理が必要
<案2> 保育ICTシステム側で取得できるデータを一定の基準で新規感染者数とみなし連携	● 感染症対策の観点では、これまで 手入力していたデータの正確性と比較すると、みなしデータは精度が低下する	○ データの自動連携により、手入力の負担が軽減 ● 保護者の入力情報をもとに感染症システムへデータ連携されるため、ワンスオンリーが実現		● 感染症システム側の改修負担はなく、費用が発生するとしても テスト工数だけで済む ● 保育ICTシステム側 での集計処理は、開発・運用負荷が高く、 大規模なコストが発生 (千万～数千万円規模)	
<案3> 保育ICTシステム側で感染症システムのデータ入力画面を実装	● これまでと同様のデータ精度 であり、変化は生じない	● 保育ICTシステム側で感染症情報を入力可能となることから一つのシステムで作業を完了でき、 負担軽減につながる ● データ手入力の観点では、これまでと負担は変わらず		● 感染症システム側、保育ICTシステム側の両方に改修コストが発生 ● ユーザー認証情報やデータ連携の機構を準備するなど改修コストが発生	
<案4> 保育ICTシステムからローデータを連携し、感染症システム側でデータ作成	○ ローデータのまま連携されるので、 データの正確性としては、望ましい	○ データの自動連携により、手入力の負担が軽減 ● 保護者の入力情報をもとに感染症システムへデータ連携されるため、ワンスオンリーが実現		● 感染症システムの連携サーバ等でデータ加工するための大規模な実施コストが発生 (千万～数千万円規模) ● 連携基盤、ロジック構築や個人情報を匿名加工するなどの仕組み構築が必要	

凡例：○・・・各観点に対して疑義がない、小規模な負担が生じる、△・・・各観点に対して変化がない、または一定の負担が生じる、×・・・各観点に対して、大規模な負担や不都合が生じる

3. 仕様案検討状況 3.1 保育

- ✓ 関係団体からの意見を踏まえ、標準案へは、案 1 ～ 4 の実現にあたっての課題等を取りまとめ、次年度以降の論点を整理しました。

論点④：「疾患の登録」画面への具体的なデータ連携方法

全国標準とする仕様案・データ標準案への反映方針及び今後要検討の課題

- ✓ **保育ICTシステムや感染症システムそれぞれの立場からは、案1（保育ICTシステム側でデータ作成し連携）及び案4（保育ICTシステムからローデータを連携し、感染症システム側でデータ作成）が、感染症対策/感染症システム側のシステム改修負担等の観点、保育ICTシステムベンダーのシステム改修負担等の観点から最も効率的**
- ✓ 実現にあたっては、中間にデータ変換を行う仕組みを用意するなど、**保育ICTシステムや感染症システムそれぞれの立場を考慮した全体最適となる方法を検討する**ことや、その実施主体、費用負担等のあり方を継続議論することが必要

3. 仕様案検討状況 3.1 保育

- ✓ 関係団体からの意見を踏まえ、標準案へは、1日最低1回以上データ送信することとし、その他意向がある場合には双方で調整する方針としました。

論点⑤：データ送信頻度・時間・上書き処理ルール

主な意見※

- ✓ 施設の欠席締切後はデータが確定するため、**1日1回の送信で十分**
- ✓ **「当日中」や「x x 時までに連携することが望ましい」といった表現**を検討してほしい
- ✓ **送信されたデータを活用する保健所等の意向も踏まえ**、送信時間を検討するのがよいのではないか
- ✓ 校務支援システムとの連携で実施している**現行の感染症システムの連携仕様に準拠**することを基本としてほしい

議論の結果

- ✓ 実証においては1日2回データ連携を行ったが、必ずしも必要性が認められなかったため、**1日1回の送信で支障はないのではないか**
- ✓ 例えば、保健所の業務において所管エリアの感染症の状況を確認している時間帯を目的にデータが反映されているとよい

全国標準とする仕様案・データ標準案への反映方針及び今後要検討の課題

- ✓ 「x x 時までに送信することが望ましい」という表現として反映（地域ごとの事情を踏まえ柔軟に設定する）
- ✓ **最低1日1回データ連携することとし**、感染症システム側と調整のうえで、複数回送信することも可とする

3. 仕様案検討状況

3.1 保育

3.2 校務

3. 仕様案検討状況 3.2校務

- ✓ 仕様案を事務局にて作成のうえ、業界団体や関係省庁等をはじめとする関係者の皆様方から個別ヒアリング等によりご意見をいただいたうえで、第5回事業運営検討会にて仕様案として提示させていただく想定です。

	今後の進め方	実施時期
ドラフト版の作成	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 実証環境の構築にあたって実施した事項等をもとに、事務局にて仕様案・データ標準案のドラフト版を作成 	2025/12月～
ドラフト版に対する意見聴取	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ドラフト版をもとに、事務局にて論点となる事項を洗い出し、関係者に対して意見聴取を実施 ✓ 個別ヒアリング及び書面における意見照会のうえ、効率的に各者からの意見を集約（日本学校保健会様、APPLIC様、各ベンダー様、関係省庁、群馬県関係部局等） 	2026/1月～
意見を反映し最終化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 事務局にて、個別ヒアリングや書面による意見照会の結果をドラフト版に反映し、仕様案・データ標準案として最終化 ✓ 第4回事業運営検討会(本日)にて提示 ✓ 最終的には、全国標準とする仕様案の最終版を、第5回事業運営検討会にて共有し、合意形成 	2026/2月～

3. 仕様案検討状況 3.2校務

- ✓ 本事業の募集要項において、以下について成果物として定められており、記載すべき項目を検討し、関係者間で詳細の取りまとめに向けた議論を実施中です。

本事業の募集要項における成果物

- ①汎用クラウドツールをカスタマイズすることにより保護者連絡機能を構築する場合、当該機能の構築に係る仕様案
- ②汎用クラウドツール又は保護者連絡アプリと校務支援システムのAPI連携に係る仕様案・データ標準案
- ③(データ項目の更なる精査が必要な場合、)校務支援システムと「学校等欠席者・感染症情報システム」の「連携サーバ」のAPI連携に係る仕様の改訂案

仕様案の構成（本仕様案に①～③の内容を含む想定；それぞれの別の文書とするか検討中）

#	大項目	小項目
1	仕様案の概要	目的と背景 範囲定義
2	システムアーキテクチャ	保護者連絡アプリ・校務支援システム、感染症システムのアーキテクチャの概要 データ連携方法
3	データ形式とプロトコル	データフォーマット・通信プロトコル
4	データ項目標準案	施設情報・クラス情報（施設名、クラス情報等） 感染症情報（症状・疾患名）
5	エラーハンドリング	データ受信の際のバリデーション エラー時の処理フロー
6	参考情報	用語集

3. 仕様案検討状況 3.2校務

- ✓意見収集の対象となる関係団体ごとに個別ヒアリングや書面による意見照会を実施し、全国標準とする仕様案・データ標準案ドラフトに対する意見を取りまとめ中です。

組織の名称	意見収集の主な観点/意見収集の方法
公益財団法人日本学校保健会	<ul style="list-style-type: none"> データ標準案検討にあたって、特に症状や疾患名に関するデータ項目の定義等について感染症対策の観点から意見を収集
感染症情報システム運営事業者（株式会社エスイーシー/有限会社おうみコンピューターシステム）	<ul style="list-style-type: none"> システム運営事業者としての運営上の課題把握や現状の連携仕様についての詳細確認等を実施 個別ヒアリング及び書面による意見照会を実施
一般財団法人全国地域情報化推進協会（APPLIC）	<ul style="list-style-type: none"> 複数の校務支援システムベンダー等が参画しており、事業者の目線にてデータ連携の技術的な観点や開発コスト等の観点から意見を収集 個別ヒアリングや協会内の教育校務WGメンバーに対し書面による意見照会を実施
校務支援システム・汎用クラウドサービス導入事業者(Ddrive株式会社)	<ul style="list-style-type: none"> 実証環境の構築にあたって得られた課題等をもとに、今後参画する校務支援システム・汎用クラウドサービス導入事業者の目線や全国展開可能な仕様としての妥当性等を中心に意見を収集 個別ヒアリング及び書面による意見照会を実施
文部科学省、厚生労働省、内閣官房デジタル行財政改革会議事務局	<ul style="list-style-type: none"> 所管法令・ガイドラインとの整合、国の他事業等で実施しているデータ標準等の検討過程との整合性等の観点から意見を収集 個別ヒアリング、書面及び事業運営検討会において意見照会を実施
群馬県関連部局	<ul style="list-style-type: none"> 県・市町村の既存システム・ネットワークとの整合、学校・保育施設における運用負荷や支援体制等の観点から意見を収集 個別ヒアリングで意見照会を実施
保健所	<ul style="list-style-type: none"> 公衆衛生実務の観点から、必要情報の粒度等との整合について意見を収集 個別ヒアリングで意見照会を実施

3. 仕様案検討状況 3.2校務

- ✓ 関係団体等へのヒアリング、意見照会においては、以下のような論点があり、仕様案の取りまとめに向けて内容を整理中です。

主な論点の概要	議論の内容・経過
<ul style="list-style-type: none"> 欠席確認を行うシステム役割分担 (保護者連絡アプリor校務支援システム) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 欠席確認は保護者連絡アプリ上で確認できれば良い ✓ 始業前の多忙な状況にて、欠席連絡の状況を確認する手段が校務支援システムの機能となる場合、保護者連絡アプリからのデータはリアルタイムに連携されることがほぼ必須要件となる
<ul style="list-style-type: none"> データの送受信方向、データ形式 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 校務支援システムから保護者連絡アプリにデータ取得を行う形のシステム設計になることのほうが多いのではないか ✓ 送信するデータの種類や容量も考慮し、ファイル連携等の方法も検討が必要ではないか ✓ 限られた期間で、エンドポイント、リクエストやレスポンス例を決めきるのは難しいのではないか
<ul style="list-style-type: none"> データ標準について 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ OneRoster準拠を求めるのであれば、児童生徒コード 1 項目で必要十分である ✓ 欠席連絡の連携がターゲットであれば、都道府県コードや市区町村コードは任意でよいのではないか

4. 効果検証の進捗状況

4.1 保育

4.2 校務

4.3 保健所・保育担当部局・保健担当部局

4. 効果検証の進捗状況

4.1 保育

4.2 校務

4.3 保健所・保育担当部局・保健担当部局

4. 効果検証の進捗状況 4.1 保育 -効果検証の概要-

- ✓ 感染症システムへの入力作業そのものの削減時間や入力に必要な確認作業等の削減時間等の定量面に加え、自動連携の満足度や、業務時間削減による保育業務そのものの充実度合い等の定性面の効果を検証することを目的に、施設の職員を対象にアンケート・ヒアリング等を実施しました。

	確認する効果	方法
定量効果	<ul style="list-style-type: none"> 感染症システムへの入力に必要な確認作業や入力作業等の業務時間の削減量、削減工数 	<p>【システムデータ分析】 保育ICTシステムから欠席情報のデータを抽出</p> <p>【タイムスタディ】 各施設にて該当業務の開始時刻と終了時刻を複数回記録。複数回記録のうち、最大の所要時間を回答 <記録・回答者> ・ 上滝こども園：クラス担任（代表者一名が担当クラス分の業務について回答） ・ 桃ヶ丘保育園、石原かがやきこども園：看護師 <測定期間> ・ 実証開始前：令和7年10月21日～31日の9日間 ・ 実証開始後：令和7年12月11日～23日の9日間</p>
定性効果	<ul style="list-style-type: none"> 自動連携の実現に対する満足度 業務量削減により実施可能となった業務内容 その他所感 	<p>【アンケート】 アンケートフォーム（Microsoft Forms）へ回答（質問項目はAppendixを参照） <回答者> ・ タイムスタディ回答者と同様 <回答時期> ・ 令和7年12月11日～23日</p> <p>【ヒアリング】 アンケート回答内容や実証を踏まえての所感等をヒアリング（ヒアリング項目はAppendixを参照）。オンライン会議にて実施 <回答者> ・ タイムスタディ回答者と同様 <実施時期> ・ 令和7年12月22日、23日</p>

4. 効果検証の進捗状況 4.1 保育 - 定量的な効果① -

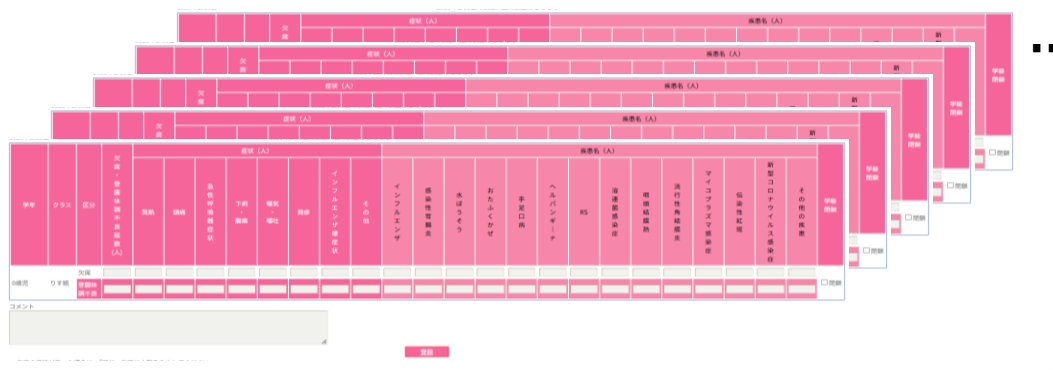
- ✓ 従来は感染症システムへの入力作業として、実証期間72日間で、1日当たり1クラスの登録を1件とした場合、延べ1,296件の登録、欠席・登園体調不良者973人分のデータ入力が必要でしたが、データの自動連携の実現により、これらの作業が不要となりました。

自動連携された延べ登録件数（1日当たり1クラス1件とカウント）
（2025/11/4～2026/1/14の72日間）

上滝こども園	432件（6件/日）
桃ヶ丘保育園	432件（6件/日）
石原かがやきこども園	432件（6件/日）
合計	1,296件

自動連携された延べ欠席・登園体調不良総数
（2025/11/4～2026/1/14の72日間）

上滝こども園	222人
桃ヶ丘保育園	247人
石原かがやきこども園	504人
合計	973人



延べ1,296件分の「日々の状況入力」画面の登録を削減

- 欠席・登園体調不良者の有無に関わらず、「日々の状況入力」において1クラスごとに登録の必要があるため、1クラスの登録を1件とし、実証期間中に自動連携された件数を集計
- 原則「施設のクラス数×実証期間中の登園日数」と同数

学年	クラス	区分	欠席・登園体調不良総数(人)	症状(人)							
				発熱	頭痛	急性呼吸器症状	下痢・腹痛	嘔気・嘔吐	発疹	インフルエンザ様症状	その他
0歳児	りす組	欠席									
		登園体調不良									

延べ973人分の症状・疾患情報の入力を削減

- 欠席・登園に関わらず、何かしらの症状・疾患があるとして登録した園児の延べ人数（＝「欠席・登園体調不良総数（人）」の延べ人数）を集計

4. 効果検証の進捗状況 4.1 保育 - 定量的な効果② -

- ✓ 欠席理由の確認にかかった時間は、施設により業務のフローが異なったため、作業時間の短縮が見られた施設と見られない施設がありました。
- ✓ 一方で、感染症システムへの入力作業は自動連携によりいずれの施設においても作業時間の短縮が見られました。

欠席理由の確認に係る業務時間削減

	実証開始前		実証開始後
上滝こども園	2分*	→	2分*
桃ヶ丘保育園	5分	→	5分
石原かがやきこども園	10分	→	3分

- ✓ 各クラスの欠席連絡について、手書きで紙に記録を残し、欠席理由の確認作業を実施していた施設においては、実証を機会に**保育ICTシステムの管理者画面で当日の欠席者と理由を一括確認できる機能を活用し始めたことにより、業務時間の短縮効果が確認された。**（詳細フローは次頁を確認）
- ✓ 一方で、既に保育ICTシステムの機能を活用していた施設については、「日々の入力」画面への欠席情報の連携だけでは、**欠席理由の確認時間に顕著な短縮効果は見られなかった。**

感染症システムへの入力に係る業務時間削減

	実証開始前		実証開始後
上滝こども園	1分*	→	30秒*
桃ヶ丘保育園	5分	→	3分
石原かがやきこども園	10分	→	1分

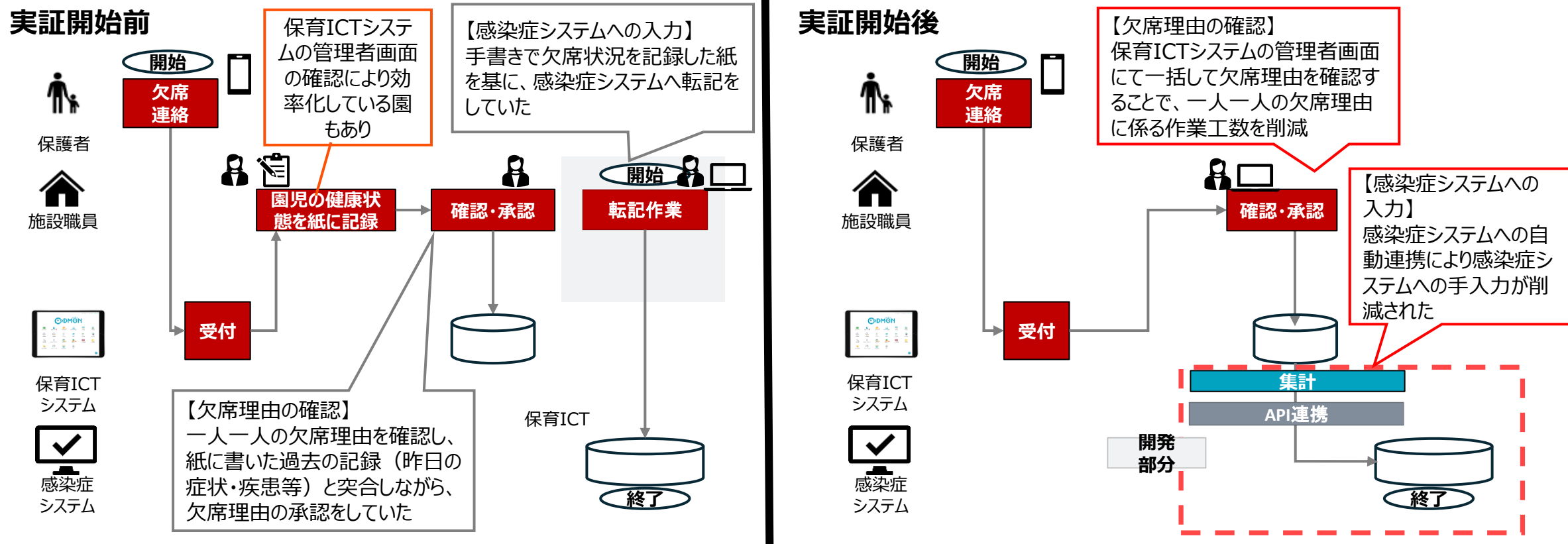
- ✓ 自動連携機能の導入により「日々の入力」画面での**感染症システムへの手入力作業が省略されたことで、一定の業務時間の削減効果を確認**できた。
- ✓ ただし、「疾患の登録」画面については引き続き手入力作業が必要となっていることから、**一部の業務時間は依然として変わらない。**

※上滝こども園の1クラス分の入力業務に係る業務時間となっている。

4. 効果検証の進捗状況 4.1 保育 -フロー-の変化-

- ✓ 実証開始前は、手書きで園児の健康状態の記録を紙に残し、一人一人の欠席理由と過去の記録を突合しながら欠席理由の確認・感染症システムへの入力作業を実施していましたが、自動連携を機にシステム上で欠席理由を確認し、自動で欠席情報が感染症システムへ連携される業務フローへと変化しました。

「日々の状況」入力業務フロー（実証開始前後の比較）



4. 効果検証の進捗状況 4.1 保育 -定性的な効果-

- ✓ アンケートやヒアリング結果より、一つのシステム上で操作が完結することの利便性や感染症情報の誤入力防止、入力作業が削減されることによる園児への対応等、保育業務の充実のための時間を捻出できたなど、定性的な効果が見られました。
- ✓ 「疾患の登録」画面の自動連携は実証対象外であったことから、実証期間中も入力作業が必要であったため、今後の自動連携への期待の声がありました。

<p>効果</p>	<p>一つのシステムで完結することにより、利便性向上や業務負担軽減ができた</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 感染症システムを開かなくてもよくなり、負担が軽減された。（上滝こども園） ✓ 手入力の手間が省かれ、便利になった。（石原かがやきこども園）
	<p>人手を介さないことにより、感染症情報の誤入力を防止できた</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 感染症システム上に複数症状の入力が可能であることに気づけた。（桃ヶ丘保育園） ✓ 手入力による誤入力を防止できた。（石原かがやきこども園）
	<p>感染症システムへの入力作業が削減されたことで園児対応等、他の対応へ注力できるようになった</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ほけん日誌記載や園児対応に時間を確保できた。（桃ヶ丘保育園） ✓ 体調不良園児の対応や担任不在時のクラス支援に集中することが可能になった。（石原かがやきこども園）
<p>課題</p>	<p>「疾患の登録」画面に係る手入力作業が手間である</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「疾患の登録」画面は手入力が必要なため、自動連携されることを期待する。（上滝こども園）
<p>今後への期待</p>	<p>自動連携が他園でも促進されることで、感染症システムが利活用されることに期待している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 他園での自動連携が進むことで、感染症システム上で地域の状況がより正確に確認できるようになる。他園には、その有用性を実感してもらいたいとともに、ぜひ自動連携の導入を勧めたい。（石原かがやきこども園）

4. 効果検証の進捗状況

4.1 保育

4.2 校務

4.3 保健所・保育担当部局・保健担当部局

4. 効果検証の進捗状況 4.2 校務 -効果検証の概要（予定）-

- ✓ アプリ導入により削減された欠席連絡の受付業務の削減時間や感染症システムへの入力作業の削減時間等の定量面に加え、自動連携の満足度や、業務時間削減により新たに実施できた業務の充実度合い等の定性面の効果を検証することを目的に、教職員を対象にアンケート・ヒアリング等を実施することを想定しています。
- ✓ アンケート項目詳細は次頁参照

	確認する効果	方法（予定）
定量効果	<ul style="list-style-type: none"> • 欠席連絡の受付業務や感染症システムへの入力作業、出席簿作成作業等の業務時間の削減量、削減工数 	<p>【システムデータ分析】 校務支援システムから欠席情報のデータを抽出</p> <p>【タイムスタディ】 各施設にて該当業務の開始時刻と終了時刻を複数回記録。複数回記録のうち、最大の所要時間を回答 <記録・回答者> • 調整中 <測定期間> • 調整中</p>
定性効果	<ul style="list-style-type: none"> • 自動連携の実現に対する満足度 • 業務量削減により実施可能となった業務内容 • その他所感 	<p>【アンケート】 アンケートフォーム（Microsoft Forms）へ回答 <回答者> • 調整中 <回答時期> • 令和8年2月13日～27日</p> <p>【ヒアリング】 アンケート回答内容や実証を踏まえての所感等をヒアリング <回答者> • 調整中 <実施時期> • 調整中</p>

4. 効果検証の進捗状況 4.2 校務（実証の効果検証について）

✓効果検証にあたり、以下のアンケート項目について対象者にご回答いただくことを想定しています。

アンケート項目(案)

※各校の業務の実態に即してアンケート内容は適宜変更する想定です。

区分	質問事項	回答方法
属性	●学校の名称をご教示ください	●自由記述
	●学校における役割をご教示ください	●選択肢から選択（担任、養護教諭、校長、副校長、その他）
定量 (所要時間等)	●実証開始前には、保護者からの欠席連絡の受付等ほどの程度時間を要していましたか（保護者連絡アプリ・電話・連絡帳等からの連絡を確認する時間、担任への連絡メモ作成時間等含む）	●自由記述（時間を記入）
	●実証開始前には、健康観察簿への記入のために、欠席人数やその理由等の確認にどの程度時間を要していましたか（朝の健康観察の時間、健康観察簿の記入作業に係る時間等を含む）	●自由記述（時間を記入）
	●実証開始前には、児童生徒の出欠状況を出席簿に整理する作業にどの程度時間を要していましたか（PC上で入力する時間、各担任への確認の時間、印刷する時間等含む）	●自由記述（時間を記入）
	●実証期間中、保護者からの欠席連絡の受付等ほどの程度時間を要していますか	●自由記述（時間を記入）
	●実証期間中、健康観察簿への記入のために、欠席人数やその理由等の確認にどの程度時間を要していますか	●自由記述（時間を記入）
	●実証期間中、児童生徒の出欠状況を校務支援システムへ登録する作業はどの程度時間を要していますか	●自由記述（時間を記入）
	●実証開始前には、感染症システムへ入力するために、欠席理由等の確認にどの程度時間を要していましたか（各クラスの健康観察簿の確認時間、校務支援システムの管理者画面の確認時間等を含むが、実際の入力作業に係る時間は含まない）	●自由記述（時間を記入）
	●実証開始前には、感染症システムへの入力はどの程度時間を要していましたか	●自由記述（時間を記入）
	●実証期間中、感染症システムへ入力するために、欠席理由等の確認時間はどの程度要していますか	●自由記述（時間を記入）
	●実証期間中、感染症システムへの入力時間は、どの程度時間を要していますか	●自由記述（時間を記入）

4. 効果検証の進捗状況 4.2 校務（実証の効果検証について）

- ✓効果検証にあたり、以下のアンケート項目について対象者にご回答いただくことを想定しています。
- ✓なお、保護者の利用満足度等については、教職員へのヒアリングにて確認する想定です。

アンケート項目(案)

区分	質問事項	回答方法
定性 (満足度等)	●新校務支援システムにおける保護者の欠席連絡の自動連携（保護者連絡アプリと校務支援システム間の自動連携）について、総合的な満足度合いはどれくらいですか	●選択肢から選択（満足/やや満足/普通/やや不満/不満）
	●欠席情報が感染症システムへ自動連携されたことによる総合的な満足度合いはどれくらいですか	●選択肢から選択（満足/やや満足/普通/やや不満/不満）
	●新校務支援システムにおける保護者の欠席連絡の自動連携（保護者連絡アプリと校務支援システム間の自動連携）により、業務の負担軽減を実感できましたか	●選択肢から選択(できた/ややできた/あまりできなかった/できなかった)
	●欠席情報が感染症システムへ自動連携されたことにより、業務の負担軽減を実感できましたか	●選択肢から選択(できた/ややできた/あまりできなかった/できなかった)
	●「本実証において評価できる点」「本実証において課題と感じた点」は何ですか	●自由記述
	●新保護者連絡アプリ及び校務支援システムの導入、自動連携により、主にどのような業務の時間削減や負担軽減を感じましたか。また、それによりどんな業務に時間を割く・注力できるようになりましたか。（複数業務について記述可）	●自由記述（例：「保護者からの連絡を確認する時間が削減されたことにより、朝のホームルームで児童とコミュニケーションを取る時間が確保できた」「タブレットで）
	●感染症システムへ入力していた時間が削減されたことにより、どんな業務に時間を割くことができましたか	●自由記述（例：ほけん便りの作成時間がx分確保できた）
	●本実証終了後も、新校務支援システムにおける保護者の欠席連絡の自動連携を継続してほしいと感じますか	●はい/いいえ
	●本実証終了後も、欠席情報の感染症システムへの自動連携を継続してほしいと感じますか	●はい/いいえ
●他校にもすすめたいと感じますか	●はい/いいえ	

4. 効果検証の進捗状況

4.1 保育

4.2 校務

4.3 保健所・保育担当部局・保健担当部局

4. 効果検証の進捗状況 4.3 保健所・保育担当部局・保健担当部局

✓効果検証にあたり、以下の内容について保健所職員にご回答いただくことを想定しています。

ヒアリング項目(案)

対象	区分	質問事項
保健所	定量 (所要時間等)	・ 実証開始前には、出席停止や臨時休業等学校・保育施設の感染症の状況の確認にどの程度時間を要していましたか
		・ 実証期間中、学校・保育施設の欠席情報が感染症システムへ自動連携されることにより、出席停止や臨時休業等学校・保育施設の感染症の状況の確認時間はどの程度時間を要していますか
		・ 感染症システム利用前は、出席停止や臨時休業等学校・保育施設の感染症の状況の確認にどの程度時間を要していましたか
	定性 (満足度等)	・ 学校・保育施設の欠席情報が感染症システムへ自動連携されることにより、総合的な満足度合いはどれくらいですか
		・ 感染症システムの導入により、総合的な満足度合いはどれくらいですか
		・ 学校・保育施設の欠席情報が感染症システムへ自動連携されることにより、出席停止や臨時休業等学校・保育施設の感染症の状況の確認等の負担軽減を実感できましたか
		・ 感染症システムの導入により出席停止や臨時休業等学校・保育施設の感染症の状況の確認等の負担軽減を実感できましたか
		・ 学校・保育施設の欠席情報が感染症システムへ自動連携されることにより、欠席情報のデータの中身に変化はありましたか（これまで連携されていた情報と変わらないか、より正確な情報が連携されるようになったなど）
		・ 「本実証において評価できる点」「本実証において課題と感じた点」は何ですか
		・ 本実証終了後も継続して、学校・保育施設の欠席情報が感染症システムへ自動連携してほしいと感じますか
保育担当部局	定性 (満足度等)	・ 本事業によるシステム連携前と比べて、体調不良時の出席抑制や実態に応じた経路別対策の適切な情報発信など感染症対策の充実に寄与しましたか
保健担当部局	定性 (満足度等)	・ 本事業によるシステム連携前と比べて、体調不良時の出席抑制や実態に応じた経路別対策の適切な情報発信など感染症対策の充実に寄与しましたか

5. 今後のスケジュール及び事務連絡

5. 今後のスケジュール及び事務連絡（今後のスケジュール）【再掲】

- ✓第1回以降、試行運用の開始前、途上及び年度末にチェックポイントとして検討会を開催し、試行運用内容や仕様案の検討状況等に対する意見聴取を行うことを想定しており、年度内で5回開催する予定です。

検討会	開催時期	目的	アジェンダ（予定）	参加者	開催場所
第1回 事業運営検討会	2025/8/7	関係者全員一同に会し、今後の方針、スケジュール等の認識合わせを行う 保育・校務の検討状況を共有	【キックオフ】 ・ 全体スケジュールの確認 ・ 実証に向けた検討状況共有 等	全者を想定 （国の機関含む）	オンライン を想定
第2回 事業運営検討会	2025/10月頃	保育ICTシステムに係る改修の試行運用を11月から開始するにあたり、検討状況、スケジュール等確認	【個別事項】 ・ API連携の仕様案・データ標準案の策定にあたっての進捗状況共有 ・ 課題、検討事項について確認 【仕様案ドラフト検討状況の提示】 ・ 仕様案ドラフトについての内容共有、意見聴取、合意	保育系関係者中心	
第3回 事業運営検討会	2025/12月頃	校務支援システム及び汎用クラウドツール保護者連絡アプリに係る改修の試行運用を1月から開始するにあたり、検討状況、スケジュール等を確認	【実証開始に向けた確認】 ・ 実証に向けた検討状況、実証イメージ等の詳細を共有、意見聴取、合意	校務系関係者中心	
第4回 事業運営検討会	本日	仕様案ドラフト・効果検証についての内容議論、試行運用状況共有	【仕様案ドラフト、効果検証】 ・ 仕様案ドラフトについての内容提示、意見聴取、合意 ・ 効果検証内容についての内容確認 ・ 試行運用状況の共有、仕様案へ反映すべき事項について確認	保育系、校務系関係者を中心	
第5回 事業運営検討会	次回	仕様案最終版についての内容確認、意見聴取、合意 本事業の全体総括	【仕様案最終版の提示】 ・ 仕様案最終版についての内容提示、意見聴取、合意	全者を想定 （国の機関含む）	

5. 今後のスケジュール及び事務連絡（事務連絡）

- ✓ 第5回事業運営検討会について、ご調整いただきたくよろしくお願いいたします。

- **第5回事業運営検討会について**

- ✓ 3/2（月）～ 3/13（金）を予定しております
- ✓ 事務局からご案内の連絡をさせていただきますので、よろしくお願いいたします

Thank you

Two large, solid orange geometric shapes, resembling parallelograms, are positioned horizontally. The first shape is on the left, and the second shape is on the right, overlapping the first one.

© 2025 PwC Consulting LLC. All rights reserved.

PwC refers to the PwC network member firms and/or their specified subsidiaries in Japan, and may sometimes refer to the PwC network. Each of such firms and subsidiaries is a separate legal entity. Please see www.pwc.com/structure for further details.

This content is for general information purposes only, and should not be used as a substitute for consultation with professional advisors.

（参考）【システムデータ分析】実証期間中の欠席連絡データ

実証期間中に自動連携されたクラス単位の登録件数※1

園名	登録クラス数（件）			
	11月	12月	1月	総計
上滝こども園	162	186	84	432
石原かがやきこども園	162	186	84	432
桃ヶ丘保育園	162	186	84	432
総計	486	558	252	1,296

実証期間中に自動連携された欠席・登園体調不良総数※2

園名	欠席・登園体調不良総数（件）			
	11月	12月	1月	総計
上滝こども園	108	102	12	222
石原かがやきこども園	164	323	17	504
桃ヶ丘保育園	105	109	33	247
総計	377	534	62	973

※1：欠席・登園体調不良者の有無に関わらず、日々の状況入力において各クラスの状況を登録する必要があるため、1クラスの登録を1件として数えた際の登録総数。

※2：欠席・登園体調不良として登録した園児の人数の総数。

（参考）【タイムスタディ】業務時間の測定値

業務内容	欠席理由の確認に係る業務時間		感染症システムへの入力に係る業務時間	
	実証開始前	実証開始後	実証開始前	実証開始後
上滝こども園	2分	2分	1分	30秒
桃ヶ丘保育園	5分	5分	5分	3分
石原かがやきこども園	10分	3分	10分	1分

※各施設の職員が複数回該当業務の開始時刻及び終了時刻を記録し、最大の所要時間を記録

（参考）【アンケート】回答一覧

区分	質問事項	上滝こども園	桃ヶ丘保育園	石原かがやきこども園
属性	<ul style="list-style-type: none"> 施設における役割をご教示ください 	<ul style="list-style-type: none"> 担任 	<ul style="list-style-type: none"> 看護師 	<ul style="list-style-type: none"> 看護師
定性 (満足度等)	<ul style="list-style-type: none"> 感染症システムへのデータの自動連携により、総合的な満足度はどれくらいですか 	<ul style="list-style-type: none"> 満足 	<ul style="list-style-type: none"> やや満足 	<ul style="list-style-type: none"> やや満足
	<ul style="list-style-type: none"> 感染症システムへの手入力の負担軽減を実感できましたか 	<ul style="list-style-type: none"> できた 	<ul style="list-style-type: none"> できた 	<ul style="list-style-type: none"> できた
	<ul style="list-style-type: none"> 「本実証において評価できる点」「本実証において課題と感じた点」は何ですか 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症システムのサイトを開かずに、入力済になる点が便利だと感じた 	<ul style="list-style-type: none"> 職員の日々入力画面は自動連携されない 自動連携の結果の反映が夕方になるところが気になる 	<ul style="list-style-type: none"> 現場支援に集中できるようになった 保護者の連絡内容の反映が遅いと感じる場面があった
	<ul style="list-style-type: none"> 感染症システムへ入力していた時間がなくなったことにより、どんな業務に時間を割くことができましたか 	<ul style="list-style-type: none"> 特になし 	<ul style="list-style-type: none"> ほけん記録を記入する時間が取れるようになった 	<ul style="list-style-type: none"> 体調不良児の対応 クラス支援と健康観察に即時対応できるようになった
	<ul style="list-style-type: none"> 本実証終了後も継続して、感染症システムへデータを自動連携してほしいと感じますか 	<ul style="list-style-type: none"> はい 	<ul style="list-style-type: none"> はい 	<ul style="list-style-type: none"> はい
	<ul style="list-style-type: none"> 他園にもすすめたいと感じますか 	<ul style="list-style-type: none"> はい 	<ul style="list-style-type: none"> はい 	<ul style="list-style-type: none"> はい

（参考）【ヒアリング】ヒアリング結果の一覧

項目	上滝こども園	桃ヶ丘保育園	石原かがやきこども園	
ヒアリング日	2025年12月22日	2025年12月23日	2025年12月23日	
ヒアリング対象	園長・担任	園長・看護師	園長・看護師	
内容	欠席理由確認時間	<ul style="list-style-type: none"> 欠席理由は自動連携の有無に関わらず確認しているため、大きな変化なし 	<ul style="list-style-type: none"> 欠席理由の確認は従来どおり実施 	<ul style="list-style-type: none"> 管理画面にて欠席者と欠席理由が集約表示されるため、確認時間は短縮 流行期は電話対応による二重確認があるため、短縮効果は相殺
	感染症システム入力時間	<ul style="list-style-type: none"> 「日々の入力」画面の入力は削減 「疾患の登録」に係る時間は従来どおり。感染症流行期はさらに入力時間増 	<ul style="list-style-type: none"> 「日々の入力」は自動連携により、目視確認のみで済むため、不要 「疾患の登録」のみ手入力が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 「日々の入力」は自動連携で不要 「疾患の登録」の手入力に時間が必要、欠席者が多い日は時間増
	総合満足度・負担感	<ul style="list-style-type: none"> サイトを開かずに済むため負担軽減 入力作業削減で心理的負担が低減 	<ul style="list-style-type: none"> 負担軽減の実感あり 	<ul style="list-style-type: none"> 入力削減と確認迅速化により負担軽減 誤入力防止につながる点が満足
	時間創出効果（業務面）	<ul style="list-style-type: none"> 他業務への影響なし 	<ul style="list-style-type: none"> ほけん日誌記載や園児対応時間確保に効果あり 	<ul style="list-style-type: none"> 登校中の体調不良園児の対応やクラス支援に集中可能
	改善要望	<ul style="list-style-type: none"> 「疾患の登録」画面の自動連携 発症日・解熱日入力欄や登園基準のリマインドなど、保護者UIの改善 	<ul style="list-style-type: none"> 連携タイミング改善（朝に出席情報を連携希望） 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者が「病欠」のみ入力するケースあり、症状未入力時の対応が課題
	今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> 「疾患の登録」画面等、自動化拡大を希望 他園展開も希望 	<ul style="list-style-type: none"> 継続利用希望 他園展開も希望 	<ul style="list-style-type: none"> 継続利用希望 効果を広報し、導入施設増加を期待
	その他課題・気づき	—	<ul style="list-style-type: none"> 複数症状登録時、それぞれの症状に振り分けて自動連携されるため便利 	—